

「美術の中のかたち」展について

出原 均

1 はじめに

沿革

- 1972年 フィラデルフィア美術館で視覚障害者用教育プログラム「アート・イン・フォーム」が始まる。鑑賞教育と制作の両方からなる。
- 1984年 美術作品を触ることができるギャラリーTOMが、東京青山で開館。
- 1988年 「手で触れる美術展」が有楽町アート・フォーラムで開催。巡回。
- 1989年 兵庫県立近代美術館で「アート・イン・フォーム」展。以後、「美術の中のかたち」展として、毎年開催。2回(1990年)と12回(2001年)のみ館蔵品だけの展示。他は、館蔵品と現存作家(複数)の組合せ。
- 2002年 県立美術館移転後最初の「美術の中のかたち」展。以後、個展ないし2人展の形式となる。15回(2004年)で、作家の作品のみの展示が初めて行われた。

2 意義

(1) 鑑賞者はだれ？

視覚障害者のために。そして、晴眼者も。

(2) 鑑賞ということ

鑑賞は創造的である。

視覚と触覚の関係

3 近年の「美術の中のかたち」展の事例

- (1) 19回展 (2008年) 梶滋・久保極 かたちの面白さ
- (2) 20回展 (2009年) 藤本由紀夫 視覚障害者の多様性
- (3) 21回展 (2010年) 金氏徹平 素材はいろいろ
- (4) 22回展 (2011年) 枡本佳子 触る鑑賞の本来性
- (5) 23回展 (2012年) 祐成政徳 空間体験

4 おわりに

視覚障害の多様さ

大きな溝に小さい石で埋めていくこと。